

拒絶理由通知書



特許出願の番号 特願2000-001805
起案日 平成16年 5月24日
特許庁審査官 鈴木 匡明 3142 5R00
特許出願人代理人 上柳 雅誉 (外 1名) 様
適用条文 第39条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願日前の下記の出願に係る発明と同一であるから、特許法第39条第1項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

本願の請求項1、2に係る発明と出願1に記載された発明とを対比すると、本願の請求項1、2に係る発明では、「密度 ρ [Mg/m³] の等方性ボンド磁石としたとき」に、「室温での残留磁束密度 B_r [T] が、 B_r/ρ [$\times 10^{-6} \text{T} \cdot \text{m}^3/\text{g}$] ≥ 0.125 の関係を満足し」及び「不可逆減磁率 (初期減磁率) の絶対値が6.2%以下である」のに対して、出願1に記載された発明では、そのような特性が記載されていない点で差異がある。

しかし、本願の当初明細書には、所定の合金組成を有し、複合組織で構成される磁石粉末からなる等方性ボンド磁石であれば、所定の磁気特性を有することが記載されている (段落【0110】～【0124】参照)。一方、出願1の明細書には、所定の合金組成を有し、ナノコンポジット組織で構成される磁石粉末からなる等方性ボンド磁石であれば、所定の磁気特性を有することが記載されている (段落【0105】～【0121】参照)。そして、本願発明と出願1の合金組成及び磁石粉末の組織は同一であることから、出願1の等方性ボンド磁石も、本願発明と同様の磁気特性を有するものである。

したがって、上記差異は、所定の合金組成を有し、複合組織で構成される磁石粉末からなる等方性ボンド磁石において、当該等方性ボンド磁石が有する磁気特性についての表現上の差異に過ぎず、本願の請求項1、2に係る発明は、出願1に記載された発明と同一である。

J0005650
US01 公開

J0005649
US01 公開
CA01 公開

J0005966
US01 公開
US02 出願

J0005262
US02 公開

J0005652
US02 特許

J0005651
US02 特許

J0005264
US02 公開

J0005963
US01 公開
US02 出願

また、本願の請求項 1 を引用する請求項 3 ～ 1・1 は、出願 1 の請求項 2 ～ 1 0、1 6 と同一発明である。

したがって、本願の請求項 1 ～ 11 に係る発明は、特許法第 39 条第 1 項の規定により特許を受けることができない。

引用文献等一覽

1. 特願平11-207910号(特許第3275882号公報) 引例手配済

この拒絶理由通知書中で指摘した請求項以外の請求項に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野 I P C第7版 H01F 1／00－ 1／117
C22C38／00

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第四部 インターフェイス 菊地聖子

TEL. 03 (3581) 1101 内線3565

FAX. 03 (3580) 6907